

恵解山古墳と山崎合戦

－その後の周辺土地利用－

2011年7月9日

長岡京市埋蔵文化財センター 木村泰彦

恵解山古墳の発掘調査

これまで11次の調査。多くの成果が得られる中で古墳時代以降の様子も明らかとなる。

長岡京期一周濠内から長岡京期の遺物が出土。周辺でも建物跡などが検出される。

造営進度（古墳の破壊）以外での検討も必要？

平安時代一周濠内及び周辺から多くの遺物が出土。建物遺構も確認される。

第3次山城国府（797～861）の可能性？

戦国期？－第4次調査で前方部周濠内からすり鉢状の落ち込みが並んで検出される。

第8次調査では西側くびれ部葺石付近から火縄銃の玉が出土。

第9次調査で後円部が大きく改変され、曲輪状に整形されていることが判明。

第10次調査で前方部を階段状段差と堀状の落ち込みを確認。

砦のような施設が作られていた可能性。遺物が極めて少ない。

江戸時代－墓地として利用。（現在の墓地以外の土葬墓）

周辺の調査

恵解山古墳の西側 長岡京跡右京第1019次調査

南北方向の堀状遺構が検出された。幅約4m、深さ約2m

恵解山の西側に掘られた防御施設？ 調子と久貝の地境に存在。

山崎合戦と「おんぼう塚」

山崎合戦－天正十年（1582）6月13日、明智光秀と羽柴秀吉との戦。

光秀の本陣「おんぼう塚」

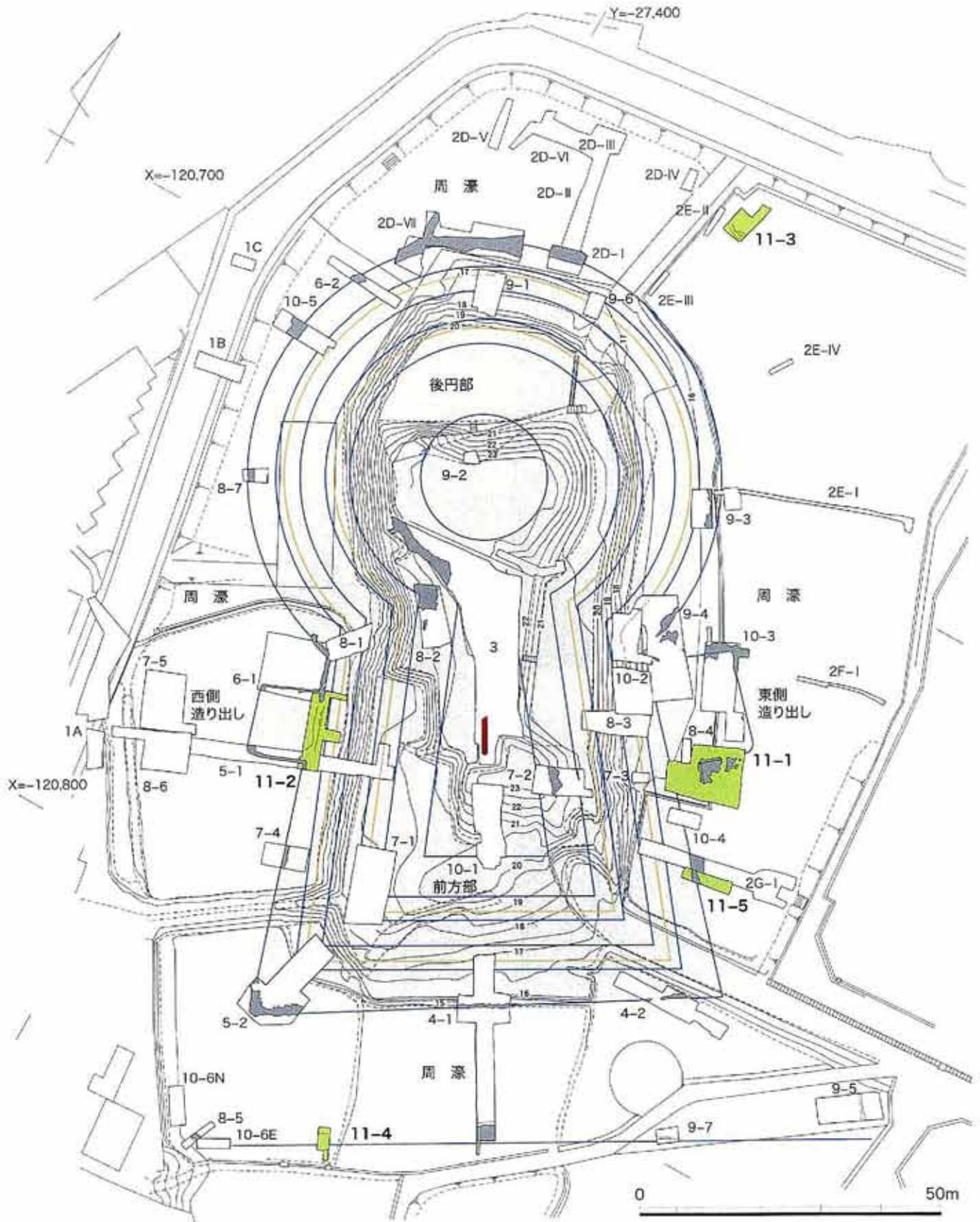
甫安太閤記「おんぼう塚」、細川家記「おんぼう塚」、新撰豊臣実録「御坊塚」

参謀本部編の「日本戦史 山崎の役」付図では恵解山古墳に比定

中山修一 恵解山古墳の南に所在する境野1号墳に比定。

全長約58m、後円部径32mの前方後円墳。小泉川に面した低位段丘端に所在。

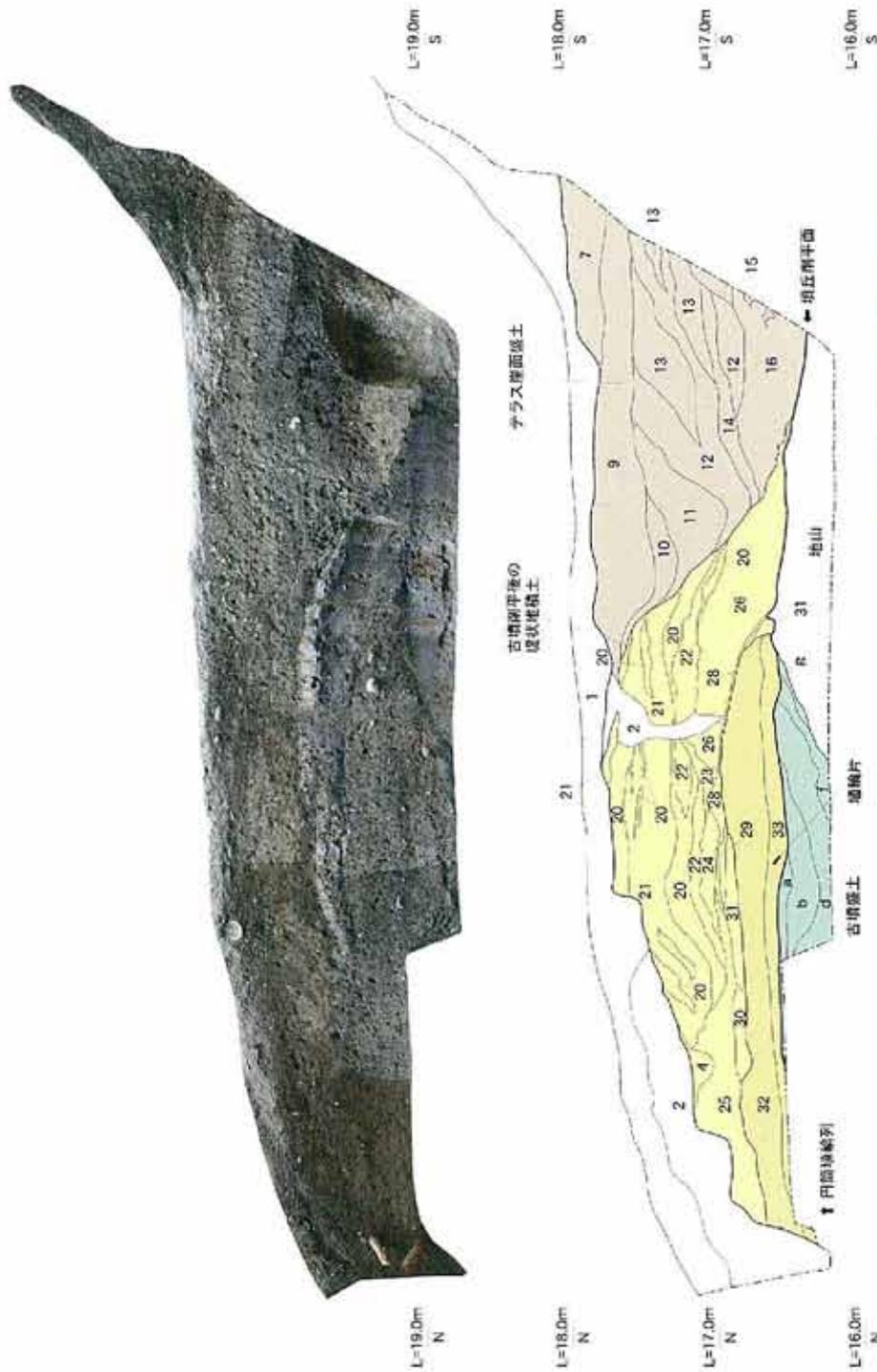
「山崎合戦図」との比較（合戦の83年後の寛文五年に作成）



(凡例)

- | | | | |
|---|-------------|---|---------------------------------|
|  | 古墳各段の復元線 |  | 埴輪列の復元線 (※ 復元線は平成22年時点の復元案に基づく) |
|  | 第11次調査区 |  | 第1~10次調査区 |
|  | 葎石・礎敷または転落石 |  | 埴輪列 |
|  | 副葬品埋納施設 | | |

恵解山古墳の調査区配置図 (1/1000)



- 19 細かい黄褐色砂質土<10YR 7/4>
- 20 灰黄色砂質土<10YR 7/4>
- 21 暗褐色シルト<10YR 7/6>-やや軟質
- 22 淡黄色シルト<2.5Y 7/4>-かたくしめる
- 23 灰黄色砂質土<10YR 5/2>-かたくしめる
- 24 灰黄色シルト<10YR 6/2>-1~3mmの砂多量含む
- 25 灰黄色砂質土<10YR 4/2>-1黄褐色粘質土<10YR 3/2>-ヘリラナーション
- 26 黒色粘土<10YR 2/1>-黄褐色粘質土<10YR 5/2>
- 27 灰黄色砂質土<10YR 5/2>
- 28 黒褐色土<10YR 3/1>
- 29 黒褐色土<10YR 3/2>-粘土質
- 30 細かい黄褐色粘質土<10YR 4/3>-暗褐色シルト<10YR 7/6>-ブロックを含む
- 31 細かい黄褐色粘土<2.5Y 6/4>-やや軟質
- 32 黄褐色粘土<2.5Y 5/3>-砂多量含む
- 33 灰黄色粘質土<10YR 4/2>-砂多量含む
- a 灰黄色粘土<10YR 5/1>-粘分含む
- b 灰黄色粘土<2.5Y 6/2>-粘分含む
- c 細かい黄褐色砂質土<2.5Y 6/3>
- d 細かい黄褐色粘質土<10YR 5/4>-1~10mmの砂含む
- e 淡黄色シルト<2.5Y 7/4>-灰黄色粘土<2.5Y 6/2>-ブロックを含む
- f 黒色粘土<2.5Y 2/1>-粘分含む
- g 黄褐色粘土<2.5Y 5/4>

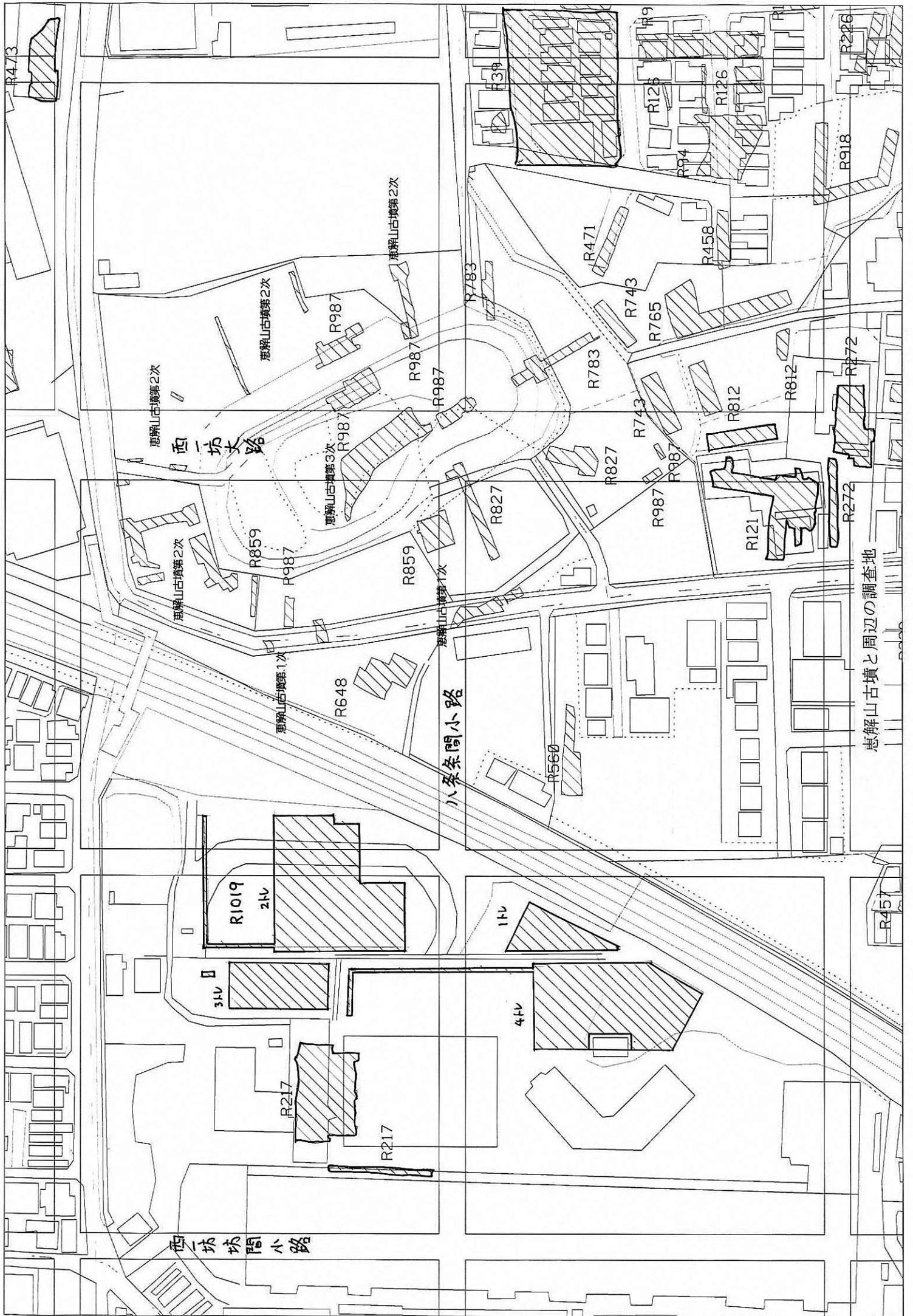
古墳周縁の埋没堆積土

- 1 竹藪土
- 2 灰黄色粘質土<10YR 4/2>-淡黄色シルト<2.5Y 7/3>-ブロックを含む、粘結片岩、磁結片含む
- 3 細かい黄褐色砂質土<10YR 4/3>-小砂含む-パサパサ
- 4 黄褐色粘土<2.5Y 5/4>-砂多量含む
- 5 黄褐色粘土<2.5Y 5/3>-比較的しめる
- 6 淡黄色シルト<2.5Y 7/4>-灰黄色粘質土<10YR 5/2>-暗褐色シルト<10YR 6/6>-泥じり
- 7 緑色砂質土<2.5Y 4/6>-1~5cmの砂含む-やや軟質
- 8 細かい黄褐色粘土<2.5Y 6/4>-小砂多量含む-やや軟質
- 9 灰黄色砂質土<2.5Y 7/4>-小砂多量含む-やや軟質
- 10 細かい黄褐色粘土<10YR 4/3>-砂多量含む
- 11 細かい黄褐色粘土<10YR 4/3>-小砂多量含む-1~5cmの砂含む
- 12 黄褐色粘土<2.5Y 5/4>-1~3mmの小砂多量含む
- 13 黄褐色粘土<10YR 5/8>-砂多量含む
- 14 黄褐色粘土<2.5Y 3/1>-砂多量含む
- 15 黄褐色粘土<2.5Y 7/4>-粘分含む
- 16 黄褐色粘土<10YR 4/1>-粘分含む
- 17 黄褐色粘土<10YR 4/1>-粘分含む
- 18 黄褐色粘土<2.5Y 4/1>-粘分含む

ナラス崖面盛土

旧式土 黄褐色粘土<10YR 3/1>
地山 灰黄色シルト<10YR 7/1>

恵解山古墳第9次調査 第1調査区東壁の土層堆積状況



恵解山古墳と周辺の調査地

Y=-27,530

Y=-27,520

Y=-27,510

Y=-27,500

Y=-27,490

X=-120,680

X=-120,690

X=-120,700

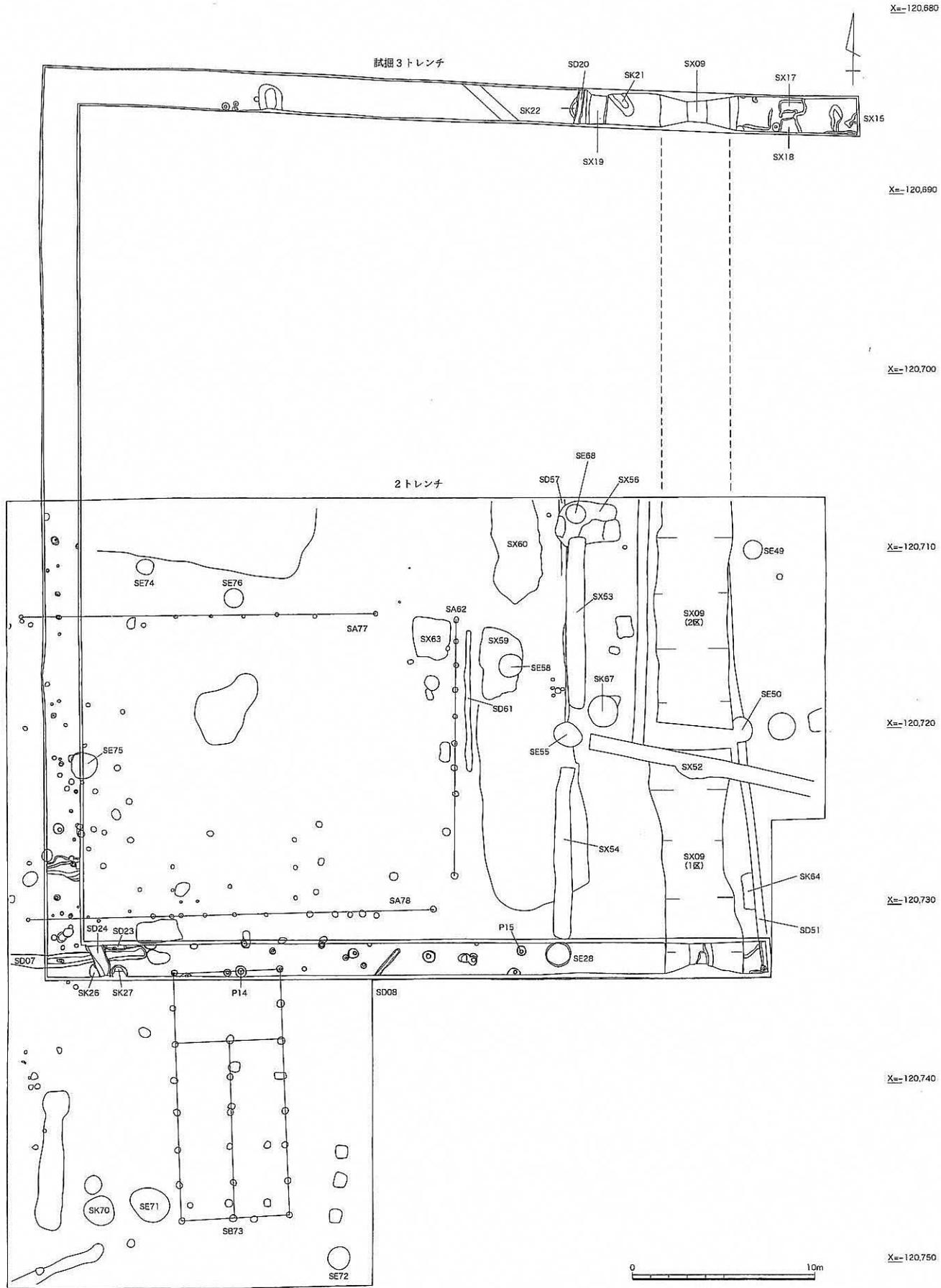
X=-120,710

X=-120,720

X=-120,730

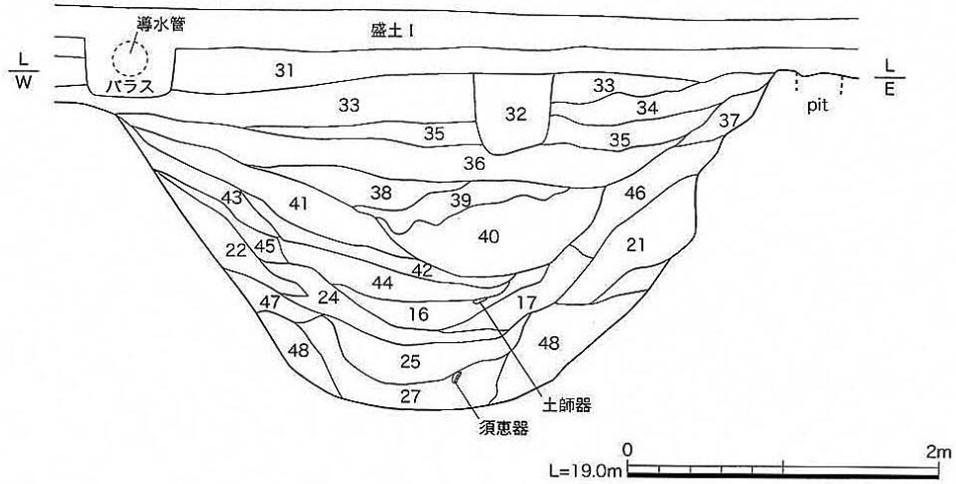
X=-120,740

X=-120,750



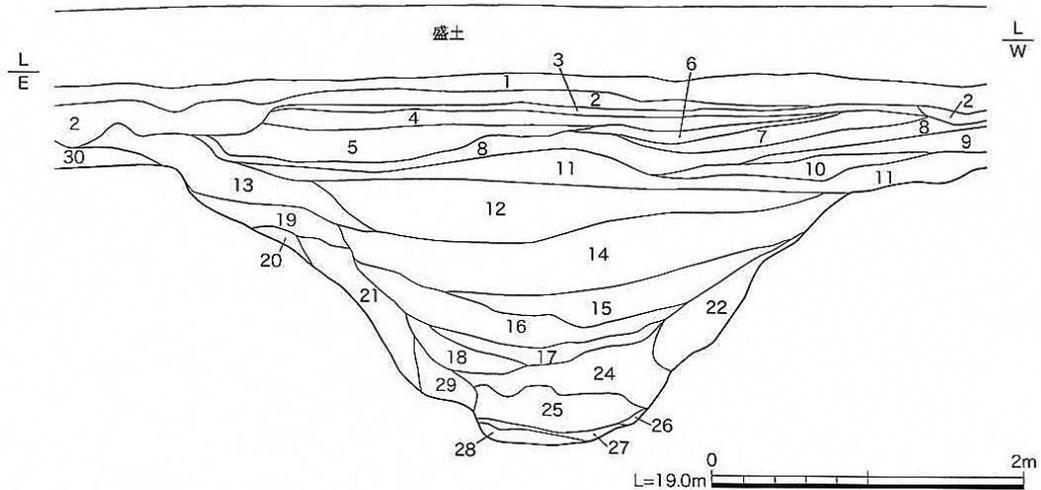
長岡京跡右京第 1019 次調査 2 トレンチ遺構平面図 (1/300)

北壁



- | | |
|---|---|
| 31 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2) 調査地北東部整地土 (江戸時代後期遺物含む) | 40 灰黄色砂質土+浅黄色粘土ブロック (2.5Y6/2) + (2.5Y7/3) |
| 32 灰黄褐色粘質土 小礫混じり (10YR5/2) | 41 暗褐色粘質土 (10YR3/3) |
| 33 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) | 42 にぶい褐色砂質土 (7.5YR5/3) |
| 34 にぶい黄褐色砂質土 小礫混じり (10YR5/3) | 43 褐色砂質土 (7.5YR4/3) |
| 35 にぶい黄色小礫混じり砂質土 (2.5Y6/2) 13と同一か? | 44 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2) |
| 36 灰黄褐色粘質土 小礫混じり (10YR4/2) 14と同一か? | 45 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) |
| 37 にぶい黄褐色粘質土 小礫混じり (10YR5/4) | 46 褐色粘質土 小礫含む (10YR4/4) |
| 38 灰褐色土 小礫混じり (7.5YR4/2) | 47 にぶい黄褐色粘土 (10YR6/3) |
| 39 にぶい黄色砂質土 礫混じり (2.5Y6/4) | 48 明黄褐色粘土 (地山再堆積土) (10YR6/6) |

南壁



上層：砂質である

- 1 耕作土
- 2 床土I
- 3 床土II
- 4 褐色粘質土 軟質 (7.5YR4/3)
- 5 にぶい黄褐色土 小礫混じり (10YR5/3)
- 6 明黄褐色粘質土 (10YR6/6)
- 7 にぶい黄褐色粘質土 小礫混じり (10YR4/3)
- 8 にぶい黄褐色粘質土 炭混じり (10YR5/3)
- 9 にぶい黄褐色小礫混じり土 (10YR5/4)
- 10 にぶい黄褐色小礫混じり土 (10YR7/4)
- 11 灰黄褐色小礫混じり粘質土 (10YR4/2) 遺物包含
- 12 灰黄褐色小礫混じり砂質土 軟質 (10YR5/2)
- 13 にぶい黄色小礫混じり砂質土 (2.5Y6/3)
- 14 灰黄褐色小礫混じり砂質土 (10YR4/2)
- 15 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)

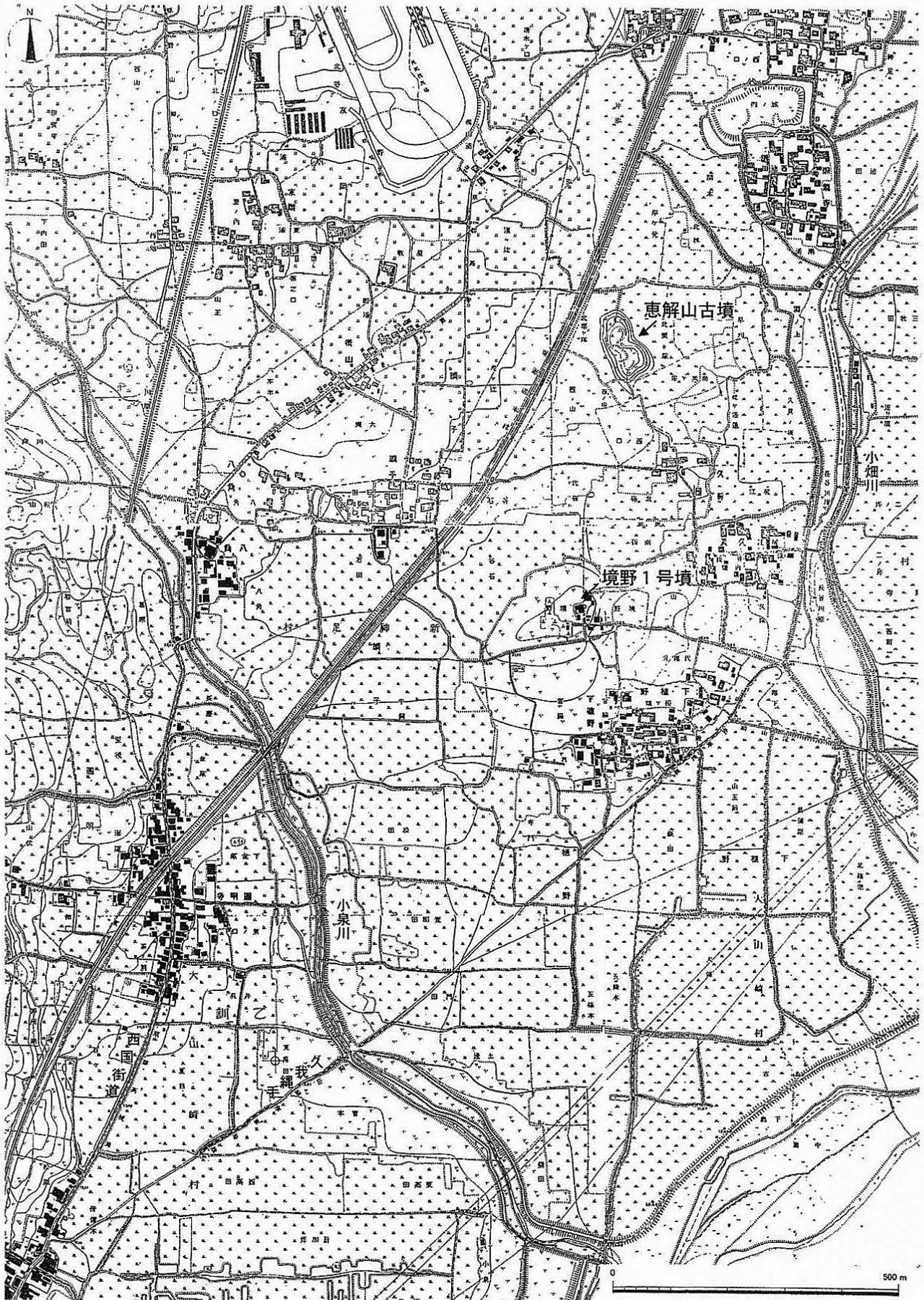
下層：粘質で礫を含む

- 16 φ5~10cm礫 にぶい黄褐色粘土混じり (10YR4/3)
- 17 灰黄褐色粘土 (10YR6/2)
- 18 φ5~10cm礫 灰黄褐色粘土混じり (10YR6/2)
- 19 暗褐色粘質土 (地山) + にぶい黄褐色粘質土 (地山) (10YR3/4) + (10YR7/4)
- 20 にぶい黄褐色粘質土 (地山再堆積) (10YR7/4)
- 21 灰黄褐色粘土 砂礫混じり (10YR5/2)
- 22 灰黄褐色粘質土 礫混じり (10YR5/2)
- 23 にぶい黄褐色粘質土 (10YR7/4) 地山
- 24 にぶい黄褐色粘土 φ5~10cm礫わずかに含む (10YR6/3)
- 25 灰色粘土 (N6)
- 26 明黄褐色砂礫 (地山崩壊土) (10YR6/6)
- 27 オリーブ灰色粘土 (2.5GY6/1)
- 28 オリーブ灰色最粗砂礫混じり (5GY6/1)
- 29 にぶい黄褐色粗砂混じり粘質土 (10YR5/3)
- 30 暗褐色粘質土 (地山) (10YR3/4)



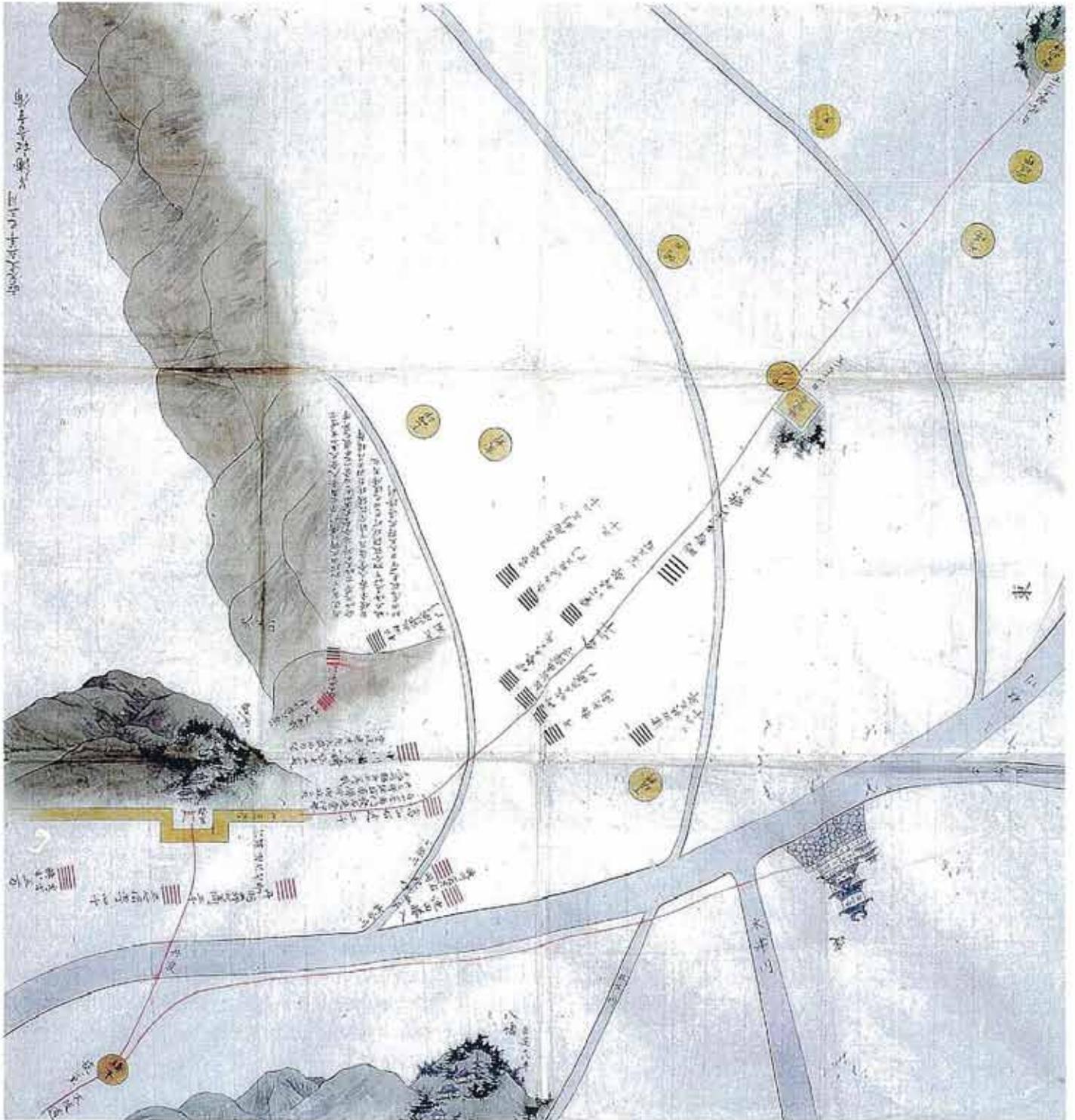
昭和34年長岡町撮影10,000分の1空中写真

北は八条ヶ池から南は調子八角付近。西から東南にむかって流れるのが改修前の小泉川。中央にはできたばかりの花山住宅がみえる。昭和4年から開催された長岡競馬は、戦時中に一時中断し、戦後再開されていたが、興業成績が振るわず昭和31年に開催停止となった。このころは、長岡町をはじめ諸団体が競馬場跡地払下げを京都府議会へ申請していた時期である。



京都市都市計画図 大正11年(1922)測図を加筆・調整

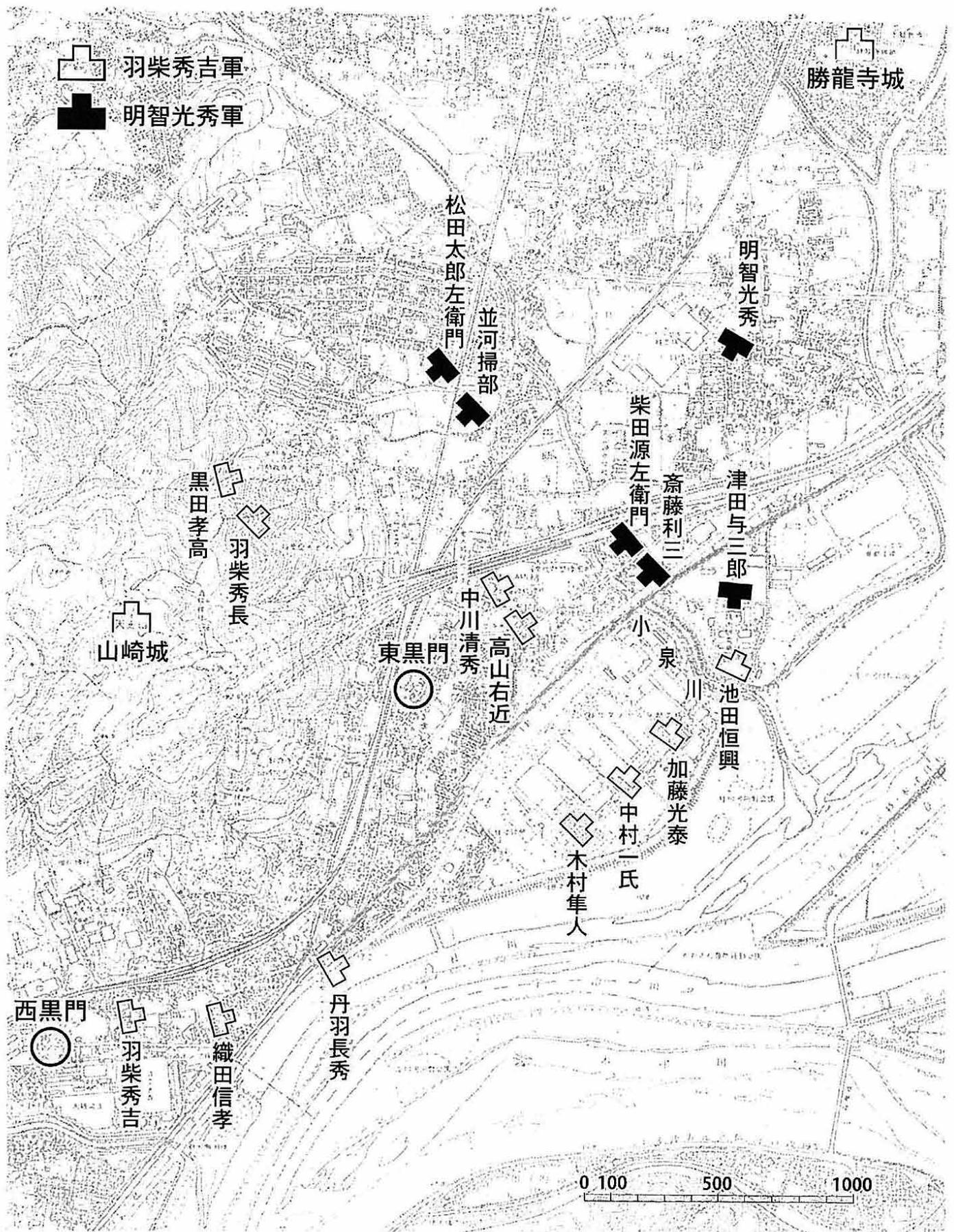
恵解山古墳周辺の旧地形図



大山崎町歴史資料館 第10回企画展
 「山崎合戦一秀吉、光秀と大山崎一」
 (個人蔵)

山崎合戦図 寛文5年(1665)

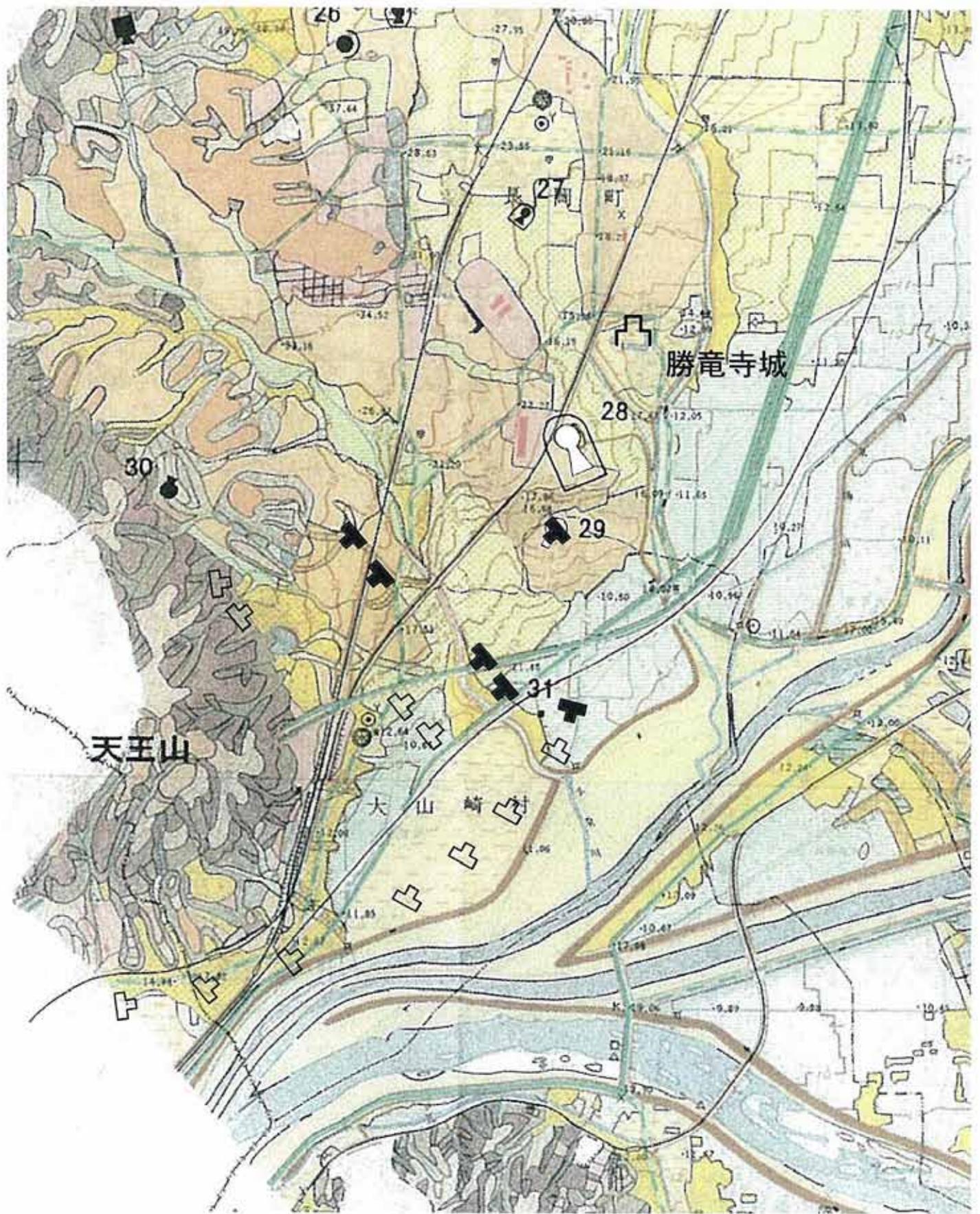
山崎合戦における秀吉、光秀の布陣を後世に考証した古地図。ほぼ小泉川をはさんで両軍が戦ったことと推定されている。注記に「芦浦観音寺備」とある。



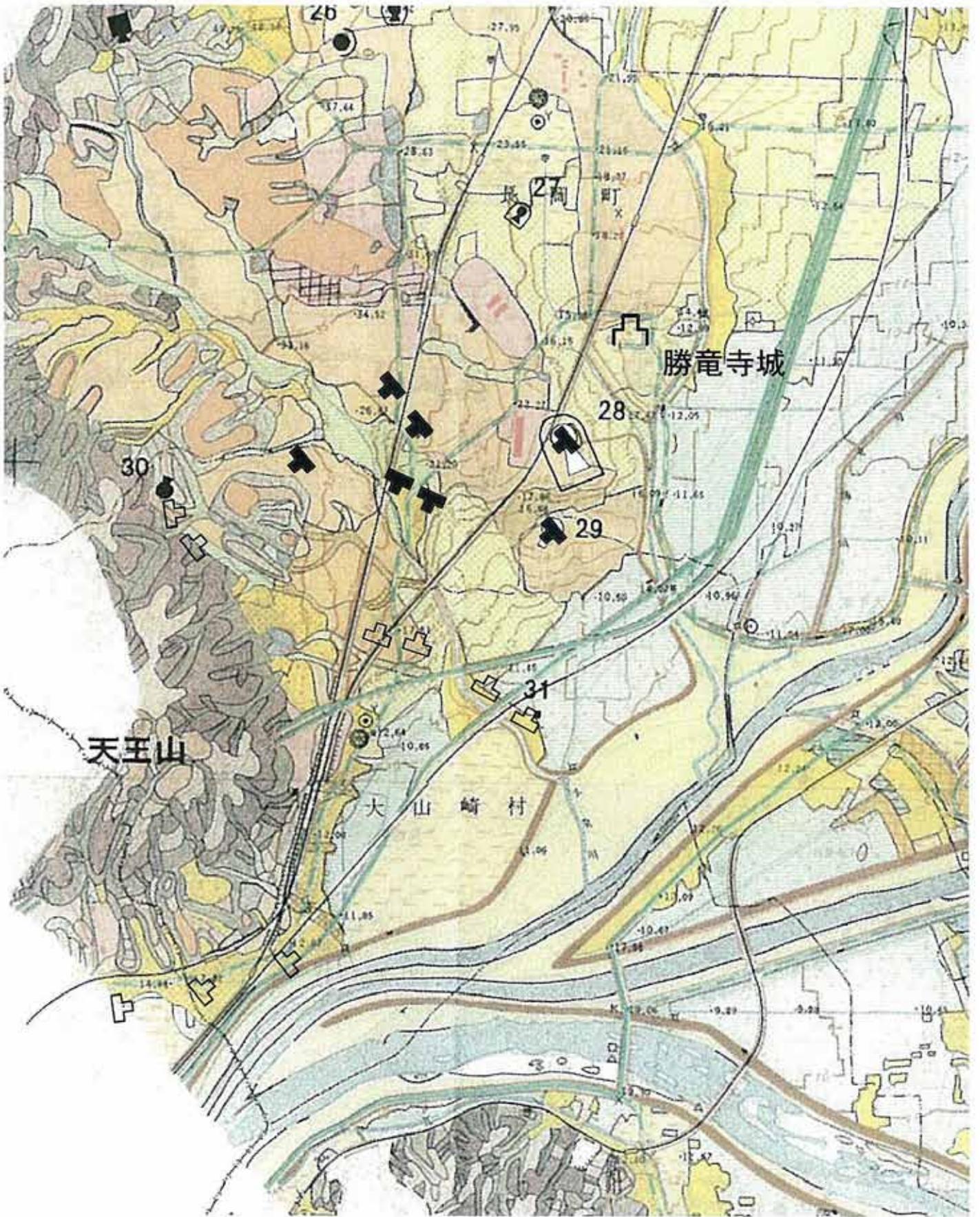
山崎合戦布陣図

『山崎合戦図』『太閤記』を参考にした。
 一般に言われる天王山の戦いは前哨戦に過ぎず、主戦場は小泉川をはさんで行なわれた。

大山崎町歴史資料館 第10回企画展
 「山崎合戦一秀吉、光秀と大山崎一」



山崎合戦布陣図と土地条件図-1 (おんぼう塚、境野1号墳説)



山崎合戦布陣図と土地条件図-2 (おんぼう塚、恵解山古墳説)